高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

私のテーマ

土居晴夫先生を囲んで



現代龍馬学会 理事 江上 英治

タートして神戸で一人加わり三名

2013 年4月2日、 高知をス

の辺りであった。

代龍馬学会の会長であった故永国 淳哉氏と理事の小島一男氏と私で 邪をひいていて最悪のコンデショ 施設へ向かった。道中永国氏は風 出発。神戸で小島氏を拾い愛知の 月2日早朝、永国氏と共に高知を けてみると快く承諾を頂いた。4 てもらった電話番号で土居氏にか ますとのことだった。今度は教え が出て、父は今名古屋の病院にい さっそく電話をしてみると娘さん ことで連絡先を教えてもらった はできないでしょうか。』という 張していますのでお会いすること ということで、『私は毎月京都へ出 問うと、『神戸におるにかわらん。 居晴夫先生はご健在ですか?』と ある。事の発端は、永国氏に『十 で名古屋へ行くこととなった。現 清須市にある満天星という高齢者 ンの中で、薄暗くなった夕刻に満

|龍馬の実像を把握できた第一人者

天星にたどりついたのだった。

底中到着時間をお知らせして施設のエレベーターのドアが開き一た。エレベーターのドアが開き一た。エレベーターのドアが開き一に座った土居晴夫氏の鋭い視線があった。90歳とは思えない眼力がある。氏は定年後、九州から北海ある。氏は定年後、九州から北海がある。氏は定年後、九州から北海がある。氏は定年後、九州から北海が

まで風邪で元気のなかった永国氏 伴い土佐へ落ちてきた!との話か おか阿とも言う姉娘と男子一人を 来たんですよね』と切り出すと 代目彦三郎の妻は大和国吉野から ら始まった。そこで、私から『ゴ 健康のことなどたわいもない話か 氏の話は、周りの近況、 きた第一人者かと思われる。土居 と、近年では龍馬の実像を把握で 身内しか知りえないことを考える はあまりにも多い。しかしながら があった。龍馬に関する書籍販売 とのことで、なかなか興味深い話 父母や両親の話も伝え聞いていた だった。また、龍馬の近況を知る祖 の声のボルテージが上がっていっ らだんだん熱を帯びてきて、それ 歳に伴う

不容訪

初代太郎五郎は1588年の長宗我部元親の地検帳にあるが、その前は全く不明だ。先祖書の記述には、太郎五郎が山城の国(京都には、太郎五郎が山城の国(京都には、太郎五郎が山城の国(京都とあるそうだ。明智氏滅亡は天正りがあるが、明智氏滅亡は天正りがあるが、明智氏滅亡は天正りたあるが、明智氏滅亡は天正りたあるが、明智氏滅亡は元亀2年(1582年)なので、息子を(1582年)なので、息子を(1582年)なので、息子を三郎(先祖書記載には元亀2年

年には別棟で諸品売買の店を開業 を始め、さらに17年後の 1694 れから11年後には筋向いで酒造業 屋・才谷屋を創業したのである。そ 下へ出て、1666年に借家で質 郎左衛門の次男八兵衛が土佐の城 る。そして、彦三郎の子三代目太 たとことが、私には不自然に思え ざ大和国から田舎才谷へやってき であったなら、息子彦三郎の嫁(お の住人須藤加賀守の女と記されて していくのである。 か阿の妹)が戦乱を避けてわざわ 太郎五郎はもともと才谷の一農民 いるだけで出生は定かでない。 彦三郎の妻おか阿は大和国吉野

才谷屋の成り立ち

その

私も25歳の時京都で独立。 3年後に身内や知り合い の全く無い高知で呉服店 を開業したが、人との信用 を関業したが、人との信用 を関うには20~30年の 月日を要した。まず商売は 知ってもらうことから始 まるので、広報手段の少な い時代に信用を勝ち得る には、さらなる年月を要し たかと思われる。

とは言えない。才谷屋初代いう在所は恵まれた土地間が経過していた。才谷と間が経過していた。才谷と

八兵衛の開業資金!11年後の酒造りの話に終始したが、土居先生はりの話に終始したが、土居先生はりの話に終始したが、土居先生は快く話してくださった。その時!快く話してくださった。その時!以上経過したので、私の方から土以上経過したので、私の方から土居先生と永国先生にお礼を述べ満居先生と永国先生にお礼を述べ満

年の秋に長い眠りにつかれた。 翌日、三名は京都へ向かい、五 条から鴨川沿いに上がり木屋町通 外付近にある薩摩藩邸跡や長州藩 邸跡、最後に土佐藩邸跡へと下っ で行った。私も40年来、月初めに であった。永国先生は鮮やかな桜 並木を見て、『こんな見事な桜は初 がであった。永国先生は鮮やかな桜 並木を見て、『こんな見事な桜は初 がであった。ショウンであった。 かのう。』という言葉を残し、その たのう。』という言葉を残し、その



2013年4月2日 土居晴夫先生(中央)を囲んで(筆者右端)

一神影流剣術から見た幕末の縁

の『諸国門人姓名録』には、他藩 どのように存在したのかをみて 末、大石神影流を中心とした縁が の門人の姓名がきわめて多い。幕 も多い流派である。しかし大石家 流派であったと誤解されること たために試合に勝つためだけの にみあう5尺3寸の竹刀を用い 合でその名を知られ、7尺の身長 流派であった。流祖の大石進種次 末の剣術を改革した新しい剣術 (1798―1863) は他流試 柳河藩の大石神影流剣術は幕

大石神影流とは

とがわかる。江戸で他流試合が盛 時から他流試合を行っていたこ を収めており、柳河藩ではこの当 木四郎太と試合し首尾よくこと 術師範をめざした嶋原藩浪人黒 門は宝暦の初めころ柳河藩の剣 を学んだ。遊釼の師村上傳次左衛 のことである。愛洲陰流の試合稽 んになったのは天保の改革以降 より大嶋流槍術と愛洲陰流剣術 の大石進種次は祖父遊 この人英雄豪傑とみへたり」とあ

7尺であった種次は5尺3寸の 根本で作りこれを用いた。身長が るべきものとし、袋撓では長くで う胴を厚い革で作った。用いる刀 り上がらせ、また打撃に耐えるよ と革手袋、長さのきまった袋撓で 竹刀を使った。 竹刀の原型を孟宗竹の節の多い きないため現在用いられている や竹刀は身長力量に応じて変わ るように面金を鉄とし中央を盛 種次は防具を改良し突技ができ あった。身長7尺で大力であった 古に用いる防具は竹で作った面

の試合を言う。

藤川整斎の『長月物語』に「誠に みつかっていないが、直心影流の との試合内容に関する古文書は 柳河藩邸の師範が男谷と試合を 舟の又従兄弟である男谷精一郎 ために出府を命じられた。この時 め大石進種次は男谷との試合の したがはかばかしくなかったた が他流試合を行っていた。江戸の の出府である。当時江戸では勝海 にしたのは天保3年(1832) 男谷との試合や他の剣術師範 大石進種次の名を全国的に有名

> 変更していることから江戸の剣 術界に大きな影響を与えたこと い始め、袋撓から長寸の竹刀へと り、江戸の多くの流派が突技を用 がわかる。

き稽古を行っている。 に2度も大石と試合している。ま 邦の前でその技を披露したとき をえており、初めて大石が水野忠 かったらしく、伊庭は大石出府の いる心形刀流の伊庭軍兵衛秀業 試合を行い、各藩士に稽古をつけ 分けて3日試合を行った。飫肥藩 るだけでも水野忠邦の前で日を よった。このとき種次は記録に残 のことである。水野忠邦の要請に た大石は伊庭軍兵衛方へも出向 直前に柳河藩邸で稽古する許可 に大石進種次の技を習得させた ている。水野忠邦はひいきにして は天保10年から翌11年にかけて 次に大石進種次が出 人吉藩邸、大洲藩邸などでも 府したの

録が残る嘉永4年5月19日の津 流の桃井春蔵とも試合し、試合記 一刀流の千葉栄次郎や鏡新明智 大石進種次の子種昌も嘉永2 4年、6年と出府した。北辰

> 自是君名遍天下」という一文はこ 之、乃設場於江都之邸、大招致四 帰筑序」中の「藤堂侯聞君名欲試 ている。吉田東洋の「送大石種昌 藩邸での試合では桃井に圧勝し 方剣客、選其最精者二人、使與君 時臨場會観者亡慮八諸侯、

した。 5年8月のことで約2ヶ月滞在 耻へし耻へし実ニ萬夫不當之若 之者故用捨もなく敲きすへ候ゆ は「其技も妙なる事進退之有様宛 州藩の記録である『密局日乗』に 化2年に約1ヶ月間指導した。長 向き指導を行った。長州藩では弘 れている。土佐藩への指導は嘉永 かも猿飛蝶舞の如し、また早り雄 者とハ斯人乃事ならんか」と記さ へ藩士中の壮氏等も大畏縮之躰、 種昌は長州藩と土佐藩へも出

けた者は数多い。大石進種次は自 影流の門に入らずその影響を受 404名にのぼった。 また大石神 記された他藩からの入門者は に残った『諸国門人姓名録』に を知られた大石神影流は大石家 大石進父子によってその実力

> またその先進的な竹刀や面、胴な 技は流派を超えて取り入れられ、 で始めた諸手突、片手突、胴切の 知ヘシ」つまり大石進種次が試合 學者ハイヨイヨ吾コソ元祖タルヲ カル上ハ諸手片手突胴切ノ試合ヲ シラへ大石神影流ト改ルナリ、シ リ、夫ヨリ突手胴切之手カスヲコ クシテ今ハ大日本国中ニ廣マリタ 切ノ業ヲ初タリ、其後江都ニ登リ リカ子ルナリ、コノ故ニ鉄面、腹 切へキノ胴ヲ切ス大切ノ間合ワカ 記している。「十八歳の時ニ至リヨ ども他流派に取り入れられていっ 右ノ業ヲ試ミルニ相合人々皆キフ 巻合セ手内コシラへ諸手片手突胴 クヨク考ルニ刀ノ先尖ハ突筈ノモ ら大石神影流陰之巻に次のように たのである。 ス胴切ナクテハ突筈之刀ニテ突ス ノナリ、胴ハ切ヘキノ処ナルニ、突



日本武道学会中四国支部会理事 大石神影流剣術師範 森本 邦生

大石神影流と長州藩

新陰流剣術師範の内藤作兵衛が 試合稽古導入のため天保10年に 試合稽古は行われていなかった。 |州藩の剣術は形稽古のみで

大石進種次の孫弟子であったと 杉晋作などは試合稽古において 衛の門人であった桂小五郎や高 れ試合稽古が行われた。内藤作兵 内藤作兵衛や同じく平岡弥三丘 影流は名乗らなくとも新陰流の 辨蔵とその子甲吉も入門してい いっても過言ではない。 大石神影流の稽古道具が用いら 衛、片山流の北側辨蔵のもとでは た。長州藩では流派名こそ大石神 る。来嶋又兵衛もこの頃に入門し 入門、片山流剣術師範である北側

年にわたる長州藩の招聘による うになったのは天保12年から15 長州藩が神道無念流を学ぶよ

長別被養

藩士の萩への派遣を断ると同時 藩が断ってから後のことである。 柳河藩士の剣槍術の指導を柳河 士への指導も断っている。 に江戸藩邸の師範による長州藩

大石神影流と土佐藩

ある平岡弥三兵衛の子息2名も

響が大きかったという。 の導入と大石進種昌の招聘の影 試合が解禁された。この他流試合 の解禁には大石神影流の土佐 安政2年になってやっと他流 |佐藩は他流試合の導入に後

に出て熊本の新陰流和田傳兵衛 ることになった。 後大石神影流は土佐藩へと伝わ した。約1ヶ月で皆伝を受けその 柳河藩に到り大石進種次に入門 に入門するもののすぐに辞して 吉は天保8年に九州へ廻国修行 ある。無外流を破門された樋口真 入門したのは中村の樋口真吉で 土佐藩で初めて大石進種次に

大石家蔵『諸国門人姓名録』 刀流の石山孫六は大石進種次に入 二出ル、遠近生文学ノ為ニ出 同行、寺田忠二氏大石先生迎ノ為 門し、以後「一刀流兼大石神影流 田忠次が招いている。このとき 同行人数六人也」とあるように寺 略〕山崎文三郎・桑原助馬両士亦 同径九州で江都ニ出ント欲ス、「中 と名乗っている。 『壬子漫遊日記』に「与石山孫六氏 永5年に土佐へ赴く。 樋口真吉の 先述したように大石進種昌は嘉

其上半年

来過差形

平化阜淮

平風七郎

地川辨養

内蘇作

大百歲人人姓名張

象二郎らが入門している。土佐藩 滞在し、この時に吉田東洋や後藤 記している 行ったとき大石家では試合せず が、武市は万延元年に廻国修行を な接点があったかは不明である 滞在中に武市半平太とどのよう 藩の門人の中では一番多い。この の大石神影流の門人は60名で他 『剱家英名録』 大石進種昌は土佐に約2ヶ月 に 「論武」とのみ

之助である。

島田は中津藩で一刀

術の師は中津藩出身の島田 本龍馬の学問の師勝

海 舟

河田佐久馬と大石神影流

影流」と記した 者の英名録には「一刀流兼大石神 見留守居役を務める家に生まれ なっている。訪ねてくる廻国修行 種昌在坂中に直接大石家門人と 後にはじめ長府の多賀虎雄に大 石神影流を学び、文久2年大石准 た。家伝であった一刀流を学んだ 河 田佐久馬は代々鳥取藩の伏



大石家蔵『諸国門人姓名録』(土佐藩)



高鍋藩大石神影流師範石井寿吉の『英名録』

は親交を持つようになっていた。 石進種次は天保3年の試合後に に有之」とある。男谷精一郎と大

おわりに

も用ひらる。諸手突、片手突とも

對』には「当時男谷先〔中略〕 7年に記した『他流試合口並問 入れた。柳河藩士笠間恭尚が天保

突

門人姓名録』にのこっている。 進種次に入門しその名が『諸国石 廻国修行しているがこの時大石 門した。江戸に出るまでに九州を 流を修め江戸で男谷精一郎に入

ま

郎は天保3年に大石進種次と試 た勝海舟の又従兄弟の男谷精一

合したのち、

大石の突き技を取り

術は現在まで伝えられている。武 では実態はわからない。興味をも 道は行動の学問であり想像だけ きな変革を与えた大石神影流 たれた方はお訪ねください。 幕末の剣術に流派を問 わず大

https://kanoukan.jimdofree.com/

勝海舟と大石神影流

3 • 現代龍馬学会

犬歩棒当記 (四十八)

宮 Ш 禎

すなわち正しい歴史の評価などとは

寄せる気分を源義経の故事から

者の物語」があると言える。

歴史上の人物」

まり誉めず、

敗者の方に心を

日

本史の読者が歴史の勝

物語や芝居でおおいに称揚されてき 朝は物語の主人公にはならないが、 ら疎まれ殺されることになった弟の 保や近藤勇や土方歳三などの「敗者 た。この流れが楠木正成や新田義貞 群なのだが、 績は武家社会を始めた源頼朝が抜 や大石内蔵助や徳川慶喜や松平容 官贔屓」と言う。 |勝家や明智光秀や真田幸村 「可哀そう」なのである。頼 「義経記」 大衆心理は兄の頼朝か 「勧進帳」 歴史上の功 」などの

原道長は歴史的には重要と思うが 筆者が得意とする平安時代の藤 人間が

る。それがいき過ぎれば

敗者の方が善だ」となりがち

「そう思う心理」にこそ

幕末維新の関係者でも 物に自分自身の心を投影する生き物 史上の人物の誰かをヒイキし、 リをすることはできるが)。 の人間には不可能なのだ(客観的なフ 「歴史を客観的に観る」などは生身 人間は歴 その人

ので大河ドラマの主人公にはならな

一度も敗けたことがない

いのである。

木曽義仲墓 (滋賀県大津市義仲寺、 この隣に松尾芭蕉の墓がある)

栄達し、

畳の上で亡

て明治の政財界で があるが、生き延び 隆盛や大久保利通

大村益次郎や西郷

その最期が非業であった坂本龍馬や

なのである

にはドラマ化の意味

まり思い入れが湧

くなった人物にはあ

かないのも現実だ。

え方は自然科学の進化論にある「適 敗者は歴史的にも敗者であるという考 者は勝ったのだから歴史的に正しいし、 良だから敗者なのだという構造だ。 る賢いから勝者であり、敗者は純粋善 無関係に、後世の人々から「好まれる 人間をして敗者を応援させることにな かしそれとは正反対の気持ちが後世の を援用したものだろう。 が居て、そこには

コラム・龍馬のこと

「龍馬と道産子たちの夢海道」

北海道龍馬会 会長 拓 一 村田

北海道龍馬会の村田拓一でございます。私は、道産子と言われ る札幌生まれ、札幌育ちの5代目です。そんな地元北海道を龍馬さ んは、新しい日本の発展ための夢の島であると感じ、死の直前に至 るまで、北海道開拓への情熱を失うことなく、4回も挫折しても挑戦し つづけた島だということです。その龍馬さんが、来たかった北海道に 龍馬さんと同じ夢を持った人たちが根付き道産子となり、開拓し発展 させてきました。私の先祖は明治13年頃に北海道に憧れ、熊本から 島根の浜田経由で札幌(新琴似)に入植しました。産業発展のため 新琴似大根を栽培・漬物加工して、販売を行ったり、教育、芸能、 信仰が必要とのことで学校設立、新琴似歌舞伎の創設、寺の開基、 神社の神主をしたりしていました。現在、その北海道の開拓という歴 史や精神の継承と食の大切さを伝えるため小学校の授業として、新 琴似大根を栽培した132年前と同じ場所で播種から収穫までを行っ ています。また、坂本家の方々も龍馬さんの夢を受け継ぐように渡道。 北見、広尾、札幌、旭川、浦臼、釧路、函館などに足跡を残しまし た。今年の9月17日に、直寛さんに縁のある旭川で龍馬world IN 旭川

が開催されます。皆さま、坂 本家や道産子たちが、どの ように夢の大地北海道を開 拓および発展させてきたの かをこの龍馬worldに参加 して、自分の目と耳で感じ、 見つけ出してください。皆さ ま方がおいでになる事を心 からお待ちしております。



ご先祖が設立に拘わった小学校での食育授業

話してみるかよ"

一 丸亀城と龍馬 -

讃岐龍馬会塩飽社中 事務局長 野藤

丸亀城天守は、全国の現存12天守の一つで、最小である。石 垣は、4 重、合わせて高さ60 mと全国一を誇る。平成30年、その 一角が崩落して、現在修復工事が進行中である。

丸亀藩は、生駒、山崎、京極と3代が治めた。以下、地元の城郭 研究家から聴いた話である。山崎家治が、築城の名人で再建。天 守の礎の石垣の両端が少し反上がっているのは、幕府の許可を得て いる。瀬戸内海を航行するキリシタンを監視する役目があったという。

文久元年、坂本龍馬が城下の矢野道場に剣術詮議に来た。司馬 **遼太郎** 『竜馬がゆく』の「萩へ」の中で、「城は蓬莱城といわれ、 小さいがなかなか姿がいい。」と竜馬がつぶやいている。

本丸まで登ると、北に内海と塩飽諸島が眺められる。 1250 石、650 人の人名による自治が認められた御用船方の島々が点在している。 幕末、咸臨丸の水夫50名のうち35名が塩飽の水主(かこ)であっ た。咸臨丸は日本を離れる前、水夫が別れを惜しむために本島に寄 港している。

少し西に目をやると佐柳島が見える。咸臨丸の水夫の一人で、後 に亀山社中・海援隊の隊士になった佐柳高次の故郷である。

『追跡!坂本龍馬』(菊池明 PHP研究所)によると、龍馬は、 丸亀沖の瀬戸内海を9回も航行している。

三の丸の西側に、吉井勇の歌碑が立っている。初めて目にしたと き、すぐ龍馬を連想した。勇の祖父は吉井幸輔(友実)で、龍馬 を大切にした薩摩藩士である。

龍馬亡き後、長岡謙吉率いる新海援隊が塩飽と小豆島を鎮撫し た。本部は城下の遍照寺白蓮社に置かれた。その後、海援隊は解 散。最近、山門右に石柱「海援隊解散の地」が建立された。

高知県立坂本龍馬記念館·現代龍馬学会 〒 781-0262 高知市浦戸城山 830

TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015 mail:gendai-ryoma@kochi-bunkazaidan.or.jp